

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

はじめの ぼうれん記 2

2016/むぎしぼり



キル

上級冒険者である凄腕の剣士。
アッシュの憧れの人。



エルム

少女のような風貌の僧侶の男の子。
おちんちんをしゃぶるのが大好き。

アッシュ



この物語の主人公。女手一つで育ててくれた母親に楽をさせてあげる為に
冒険者となる。乳首がとっても感じやすい。

登場人物

前回のあらすじ

立派な冒険者になる為に旅立ったアッシュ。手頃なモンスターの情報を得るために
向かった酒場でゴロツキの男達に情報料だと言われ犯されてしまう。
エルムと名乗る少年僧侶に治療を施されたアッシュは戦いの出来ない彼の護衛を
引き受ける事に。
実力を付ける為に挑んだ討伐戦でなす術もなくモンスターに蹂躪されてしまった
アッシュ達だったが、そのモンスターをいとも容易く倒す剣士・キルが現れる。
憧れの存在であるキルとの邂逅にアッシュは彼に仲間になって欲しい、と懇願する。
「手を使わずに俺をイカせられたら仲間になってやる」そう言っておけばウブそうな
アッシュは諦めるだろうと考えたキルだったがアッシュは懸命に口で奉仕を試みる。
思わず本気で欲情してしまいアッシュを抱いてしまったキルは仲間になる事を了承し、
三人の旅が始まった……。

第五章・僕の胸の内





今度はお前のを
口でイカせてやるよ

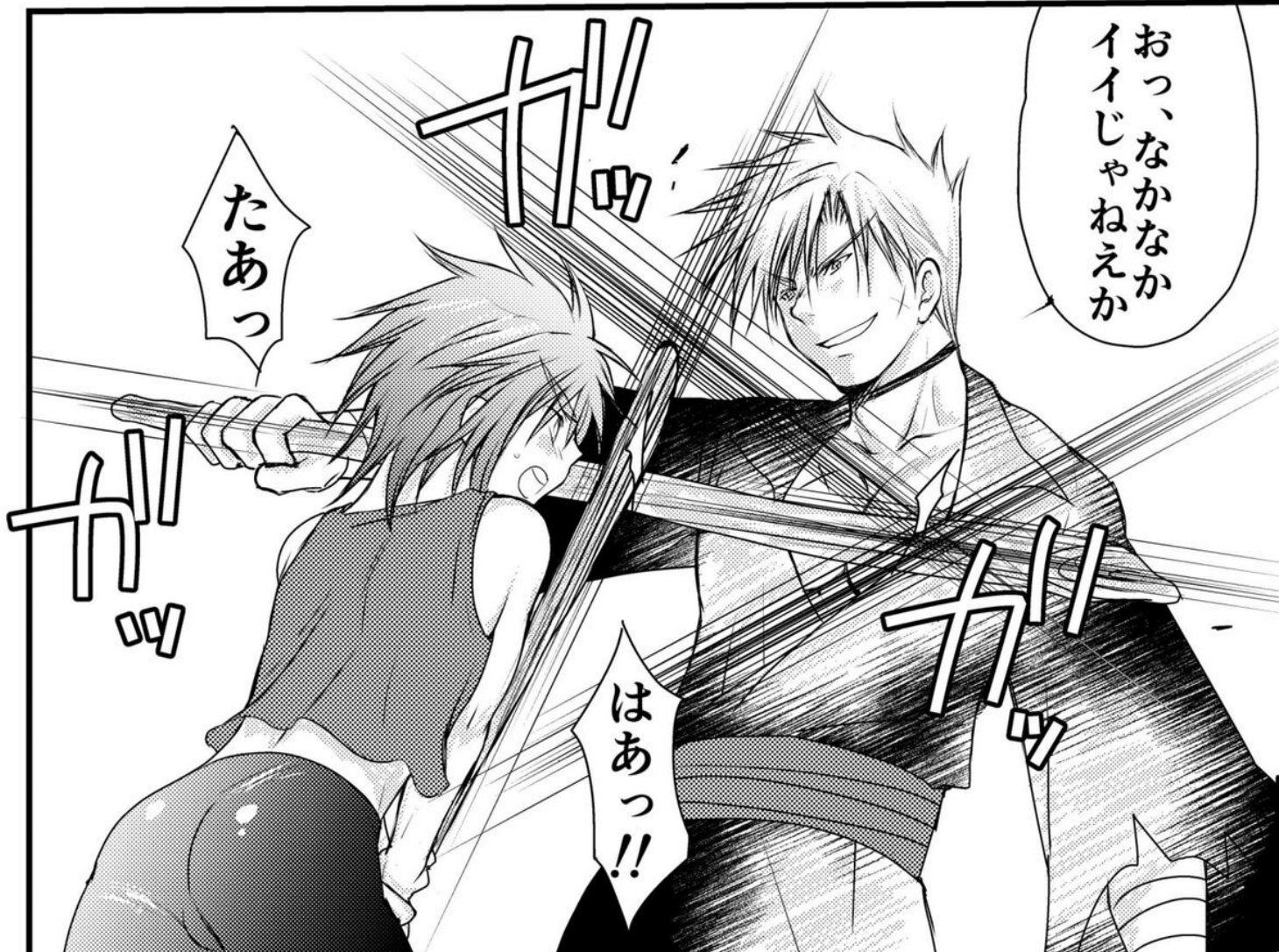
あんな事
言つたけど：
あれからなに
工ツチな事さ
されてない



おっ、なかなか
イイじゃねえか

たあっ

はあっ!!





アツシユの奴、
普段オドオドしてるくせに
イキイキしてやがる

まだまだだ！
お願いします！！



そんなに俺との稽古が
嬉しいのかよ



ま、悪くないな



背後も気に
するのはいいが
前がガラ空きだ
まずはそこを
直せ



はい！
ありがとうございます
ございます

ったく、
敬語はやめろ
つつてんだろ。
ムズ痒くて
いかん

すみませ…ごめん、
まだ慣れなくて…



母親に感謝するんだな。
こんな立派に育ててくれて

うん！
母さんには一生頭が
上がらな



…あ…

全く、いい
肉付きだ

ひゃあっ!!

落ち着け
純粋に
肉付きを
確認し
かしら
も…

ムニ

ムニ





もしかして…
この前言って…
ここでしちやうたの事
…?
…?



間違いないで
Hな意味なく
触ってる…



僕…やっぱり
期待してる…?



ぐにゅ
ぐにゅ



ん?

硬直

え...??

僕が今キスとキスしてやる!!

嫌なのか?

ううん...僕キスするの初めてで...

ん...

...

すわ

すわ

んんん

そうか

ん...

と、と、と

キスだけで濡れてんな。シヨンベンみてえだ

あ、あう…そこ見ないで下さい…



ぼ、僕、汗かいてるから汚いし臭いよ…!

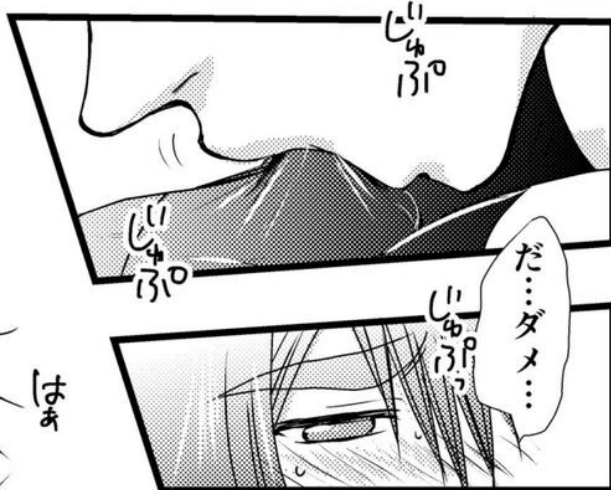
はむっ

ひやあ!?

だからこそイイんだろうが



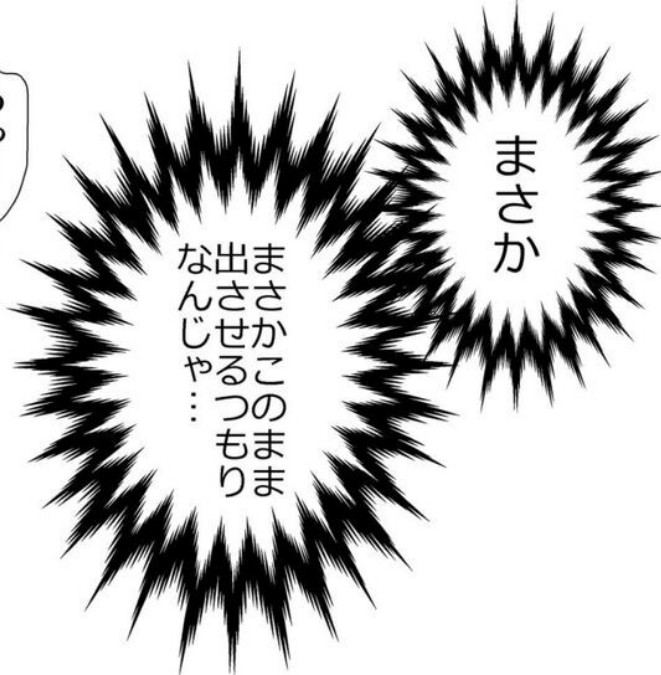
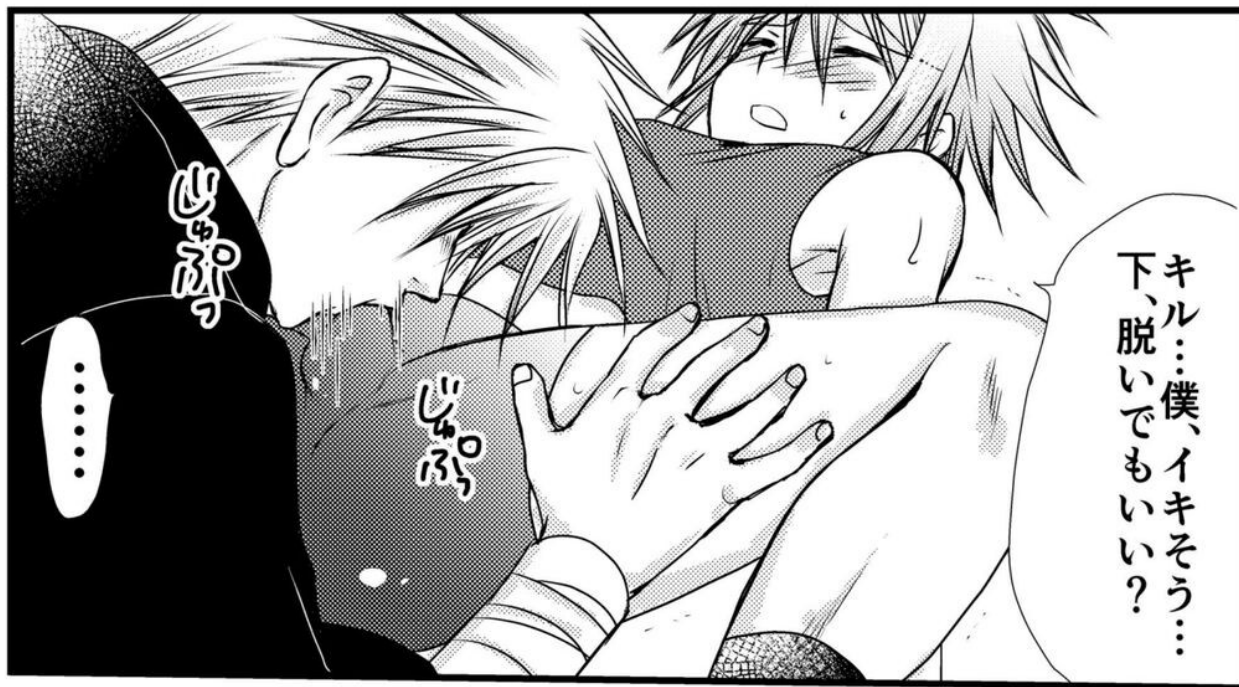
ほんとに
汚いから
ダメ!!!

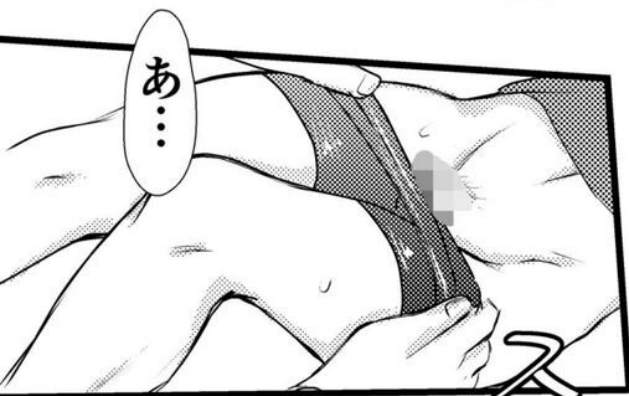


ダメだって...
言ってるのに...



〜おち...



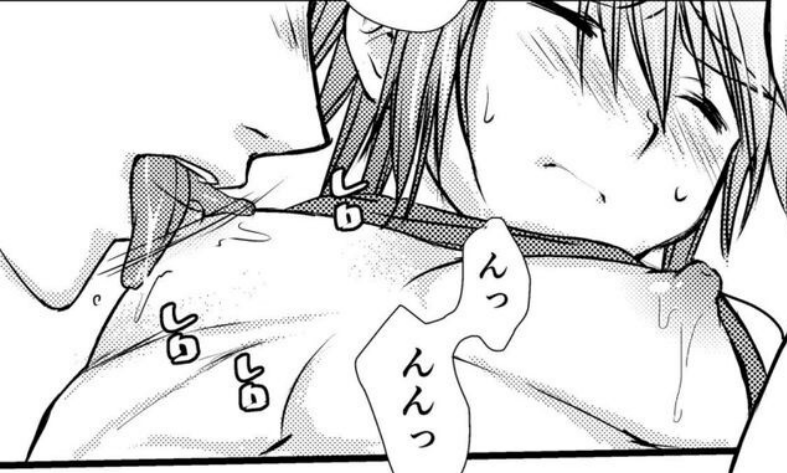




あ…
ううう
じゃあこっちも
たっぷり吸って
やらんとな



随分興奮してんな。
また勃ってんぞ



んっ
んっ



仕方ないだろ…
キルが弱いところ
吸うから…



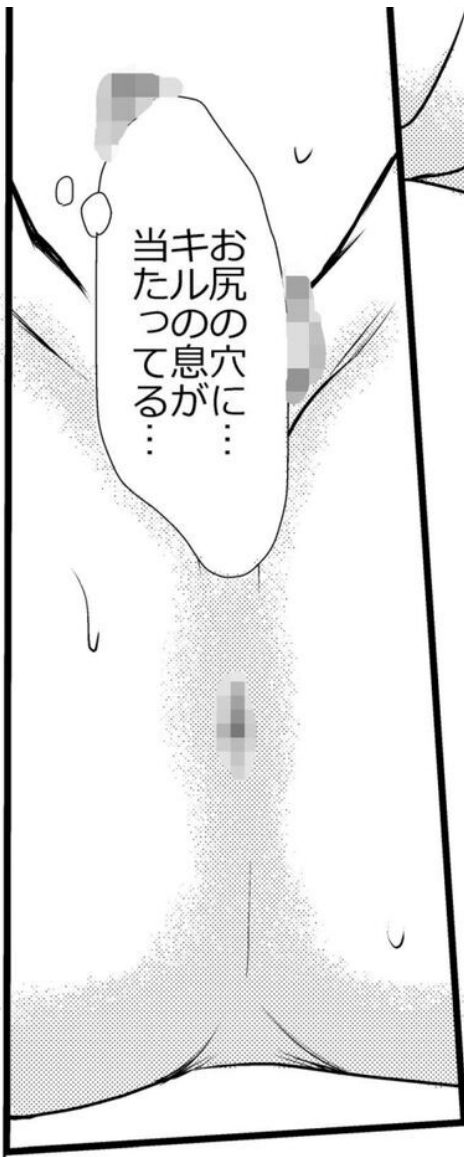
あ…あ…あ…

ぬ

ぬ



仕方ないだろ…
キルが弱いところ
吸うから…



...

ジュッ
ジュッ



キル...そこ...
恥ずかしい...



こんな
こぼして
勿体ねえな

あああつ

ジュッ

ジュッ

ジュッ

スパッツ越しと
全然違う…

うわ
うわ

キル…お願い…
僕…もう…もう…
我慢できない…

はあ

キルの唇が
舌の感触や
絡みつきり
ねつといて…

はあ

うわ

うわ

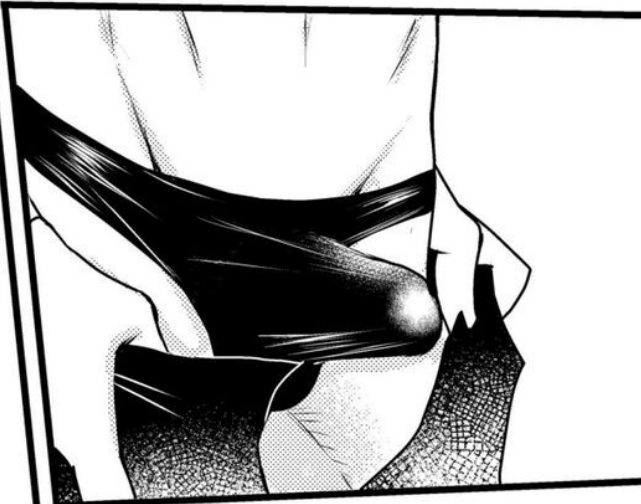
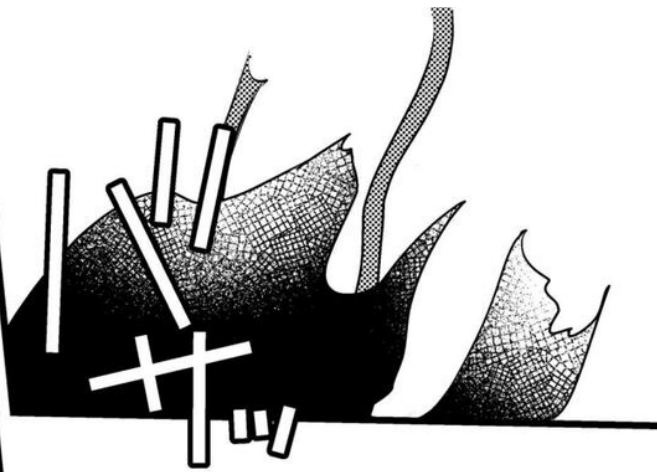
うわ

うわ

…早く…挿れて…

うわ

!!



僕にこんなに
興奮して
くれている…

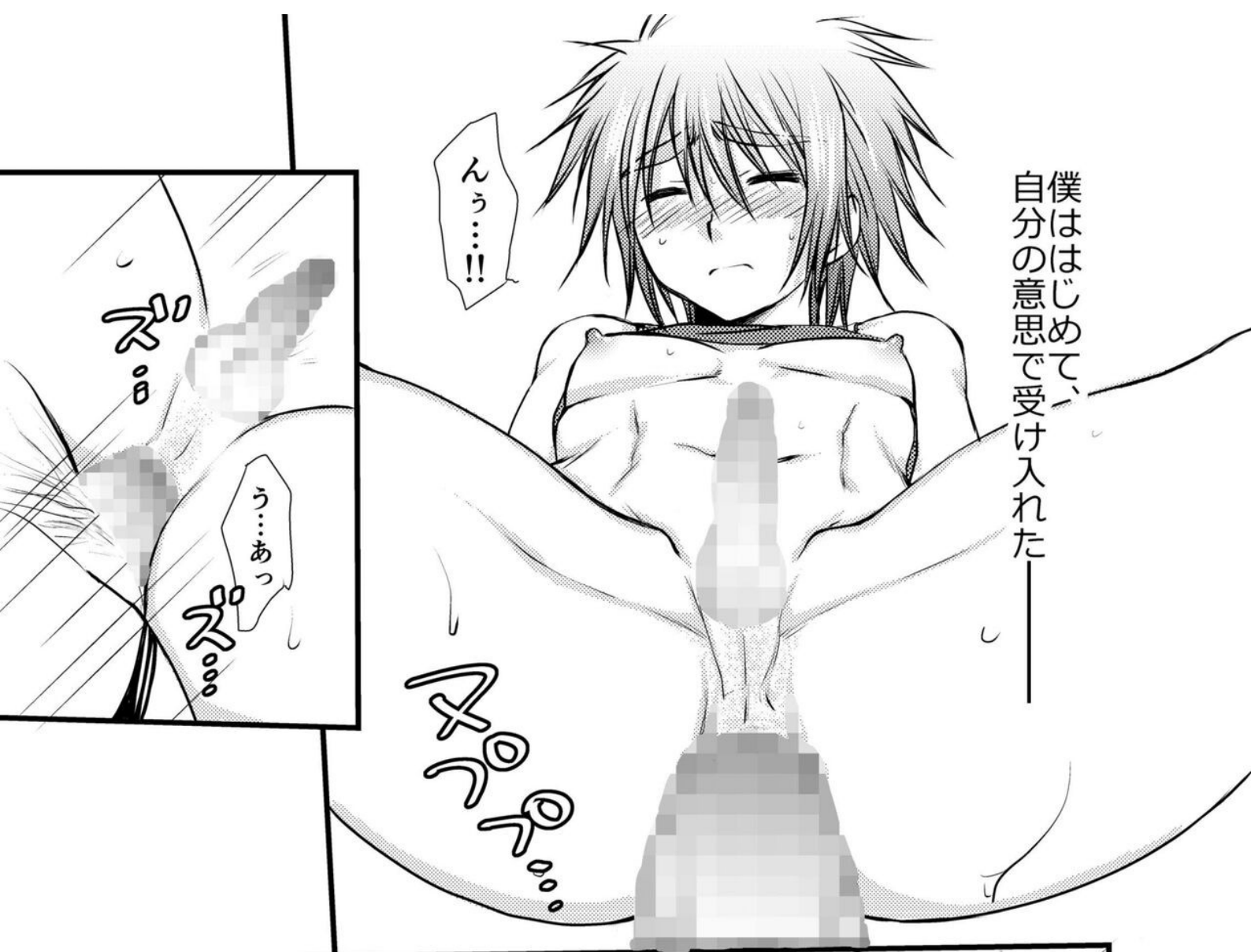
挿れい
つのぞか…?



僕は…



アッ…



僕ははじめて、
自分の意思で受け入れた

んう…!!



う…あつ

アツアツ



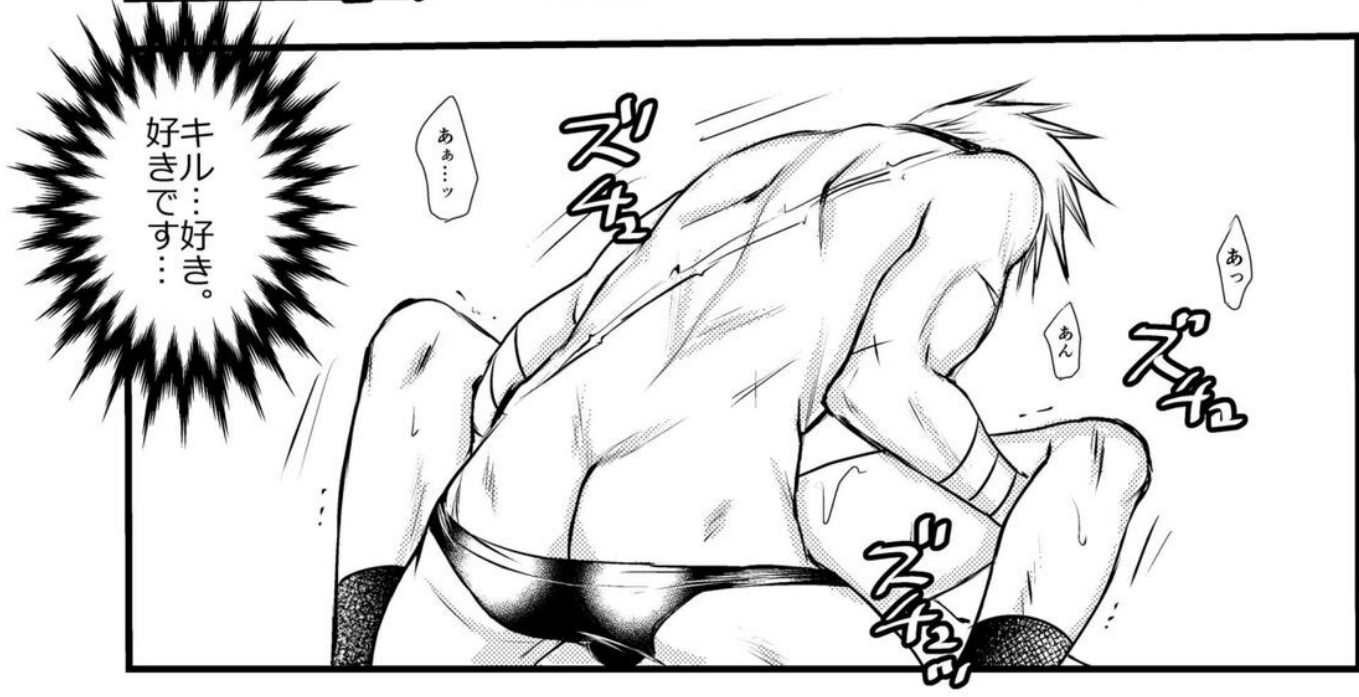
キルのおちんちんが…
本当に挿入してる…

ズツ

ズツ

ほ

ほ







もしかして
僕、口に出して
ちやつてた？



悪いなエルム。
こいつがキルム、
しゆきしゆきいって
うるさくて起こし
ちまっただら



ねえキルム、
今度は三人で
しようよお

ははは、
そいつは
楽しそうだ

恥ずかしい...!
どうしよう...

なあアツシユ

告白を聞かされた
工ム達との話も
入らなかつた
耳に
で、



第六章・目指した理由

ふう…今日の
晩ごはん確保…

すっごーい!
おにーさんだ!
なつたんじゃ
ない? 強く



そ、そうかな?
キルとの稽古の
成果が出てきた
のかも…



おっ、
仕留めたか
でかしたぞ



おねえ
キルう、
おいしいの?
の?

ん…こいつは
コンチクステロ
グ
じゃねえか





おなかすいたよお...
ごはん、まだあ...?

キル、遅いね。
どうしたんだろ



クソ...
ダメだ...

これも
違う...

はあーい♥



こいつは俺が
捌いておく。
お前達は向こうで
待ってろ



何だお前達
どうして
ここに来た

えっ...
キルが遅いから
気になって...



ガッ
一体どれで
コイツの臭いを
消せば...

ガッ
やっぱりトローヨーの
香草がねえと...





わあ…
懐かしいなあ…

…気に入ったなら
全部食っていいぞ



ズガ

そんないかに
おいしいかな

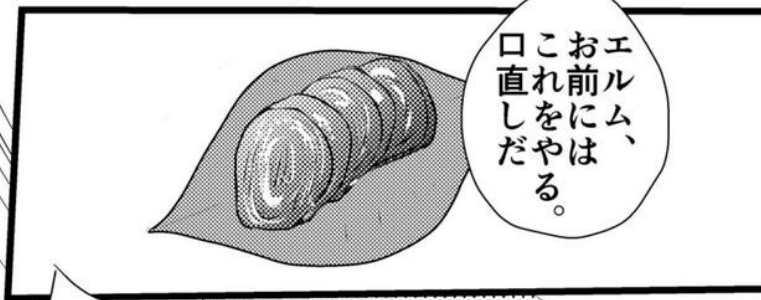


母さんのと同じ味だ…

ね。まずい
でしょ？
吐いちゃいなよ



…昔そういう
仕事をした
事はある



エルム、
お前には
これをやる。
口直しだ



おいしい…!!

すっごく
キルって
コックさん
みた—い!!





…俺は
トイヨ…って国の
出でな



さっきの話…

キルはどうして
料理人をやめたの
かなって…

言いたく
なかったら
ごめん…

……

そこで出会った隊長にえらく
近衛兵の隊長にえらく
気に入られてな。入り、
俺は城の厨房に入り、
やがてその人の付き人に
抜擢された



立派な料理人を
目指した俺は
この大陸に渡った

この国の連中には
トイヨのメシが出した
珍しいらしく出した
屋台はそこそこ
繁盛したもんだ



トイヨの料理は
それよりも…
そりゃあ、
キルが料理人
で族長の服は
民衆の服に
似てるだ…



俺はいつか隊長と肩を並べて戦える日を夢見ていた

隊長は俺に剣の才能がある、料理人にしておくには惜しい、と稽古をつけてくれてな...



近衛隊長...?



キルはもしかしてその人の事...

ああ、好きだった



よ、夜伽?

知らねえのか? 奉仕して性欲を処理してやるんだよ

!?



好きだった...

キル...

遠征中は夜伽だった。悦んで務めたもんだ。若かったな



だがそんな日は
突然失われた

王の暗殺を企てた賊に
城に侵入され、隊長は
王を守る為に戦い、そして
奴らと相討ちし亡くなった

俺には：
賊は斬られて
動きが止まら
ないから：
取身なかつた：
：



だから俺は
料理人をやめて
剣士になった

いつか仇を
討てるくらい
強くなる為にな



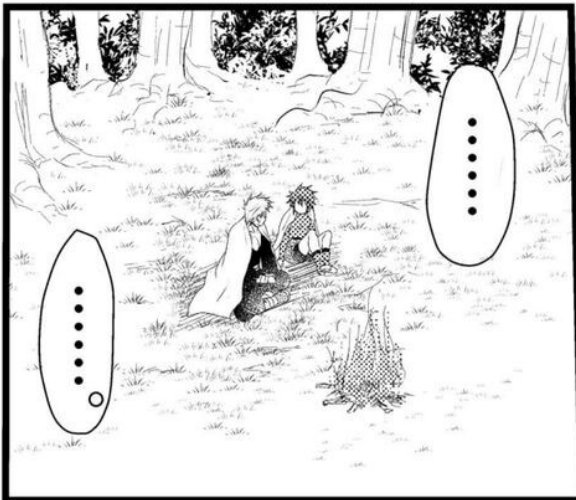
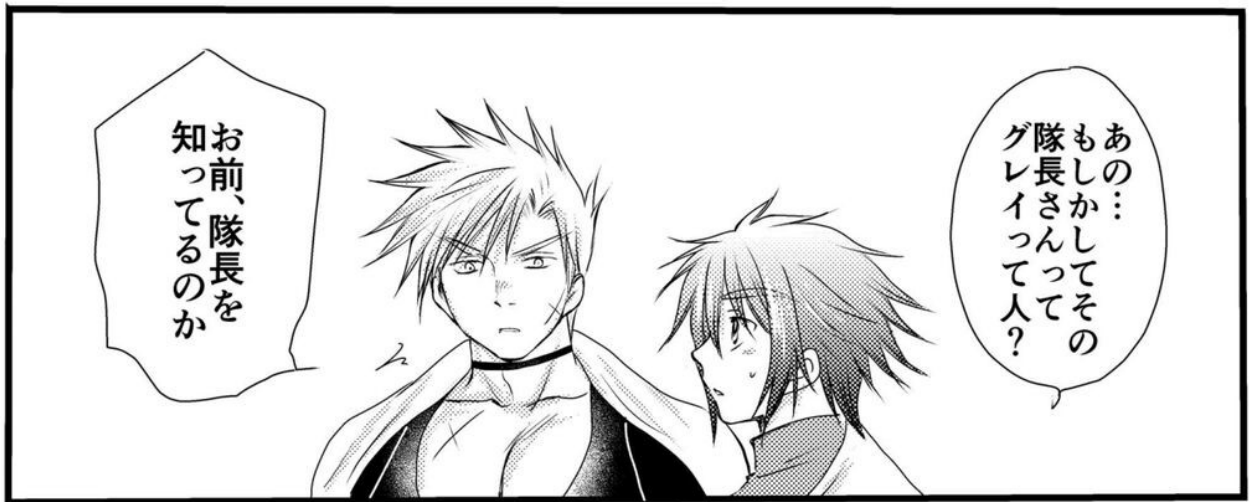
俺が：
俺がもっと
強ければ…!!



そうすれば
あの人が命を失う事は
なかったかもしれん…

ちよつと待って。

王の暗殺？
相討ちした？
近衛隊長？





もしかして…
キルが僕に触れて
来るのは、僕の中に
父さんを見ていた
からなの…?!



初めてお前を
見た時、確かにその
髪と瞳の色にグレイ様を
思い出した…

アッシュという
息子がいる事は
知っていたが…
まさかお前が…



僕の事なんか
見てなかったんだ

僕は…
僕は…!!

違う
そうじゃない
落ち着け



僕は…僕は父さんの
代わりじゃない…!!

キルが僕の事
求めてくれて
嬉しかったから…
全部捧げたのに…



アッシュ



馬鹿野郎が。
毛と眼の色以外
グレイ様とは
ちつとも
似てねえよ



でも…
ん…



俺が今
惚れてんのは、
お前だ

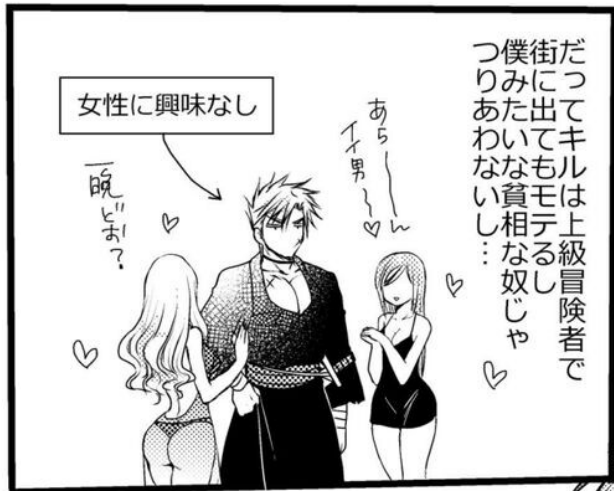


お前は俺が
好きでも
ねえ奴にキス
するとでも？

いいいや、
そうじゃないけど



惚れてるって…
キルが僕を好き…？
うそ…



女性に興味なし

「一晚どお？」

あら
イケ男

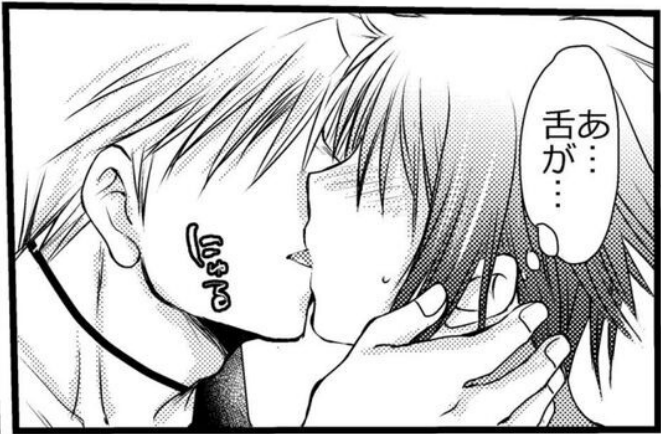
だつてキルは上級冒険者で
街に出ててもモテるし
僕みあたいな貧相な奴じゃ
つりあわぬし…

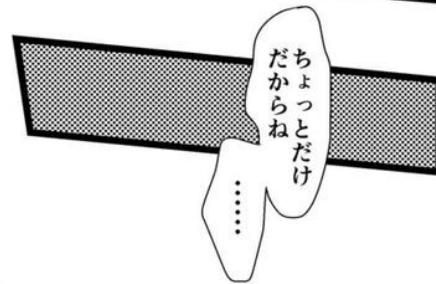


つまみ食い？
俺は皿まで
が食つてやりたい



Hな事してくるのも
つまみ食いみたいなの
ものだつて思ってた…







なに声抑えて
やがんだ?
出せよ

ん...ん

全然ちよつとじゃない...!

んんん



だ、だって...
エルムに
聞こえちゃう
...!

あっ



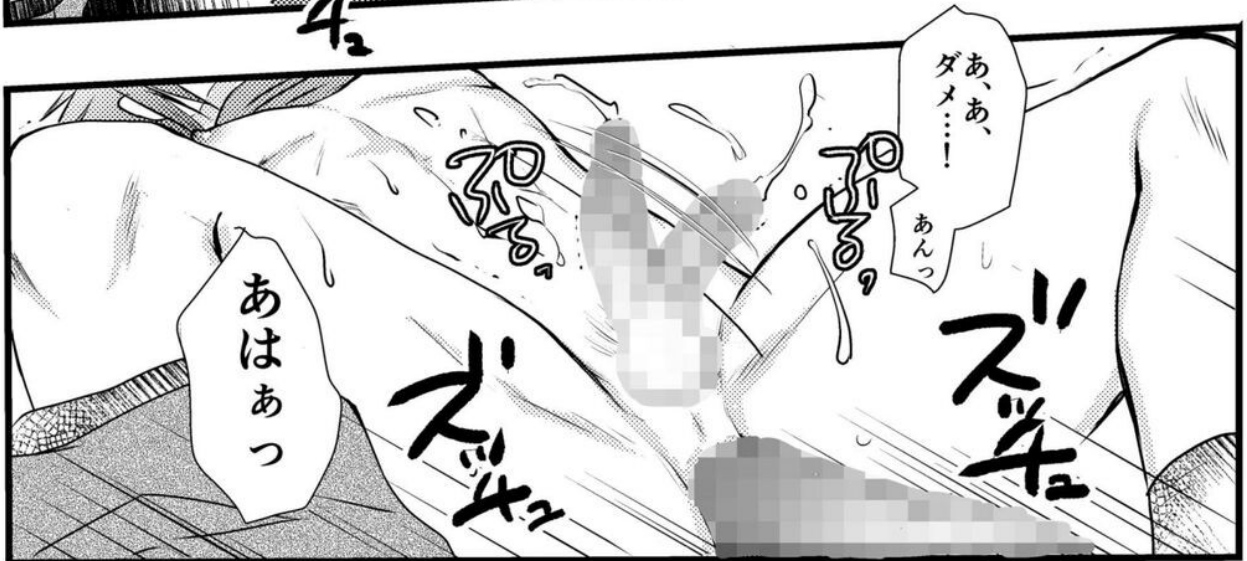
だから
聞こえねえって。
ま、聞かれた所で
今更だがな

ぬき...



ズゾゾ...

あ、あ.....!





ああ…
あ…
ちや…
った
…
終



え…?

あ…はあ…
♥

んん

んん

んん…

んん…

んんんん

んんんん

んんんん



アツシユ...
好きだ

キョウ...



セツクのス終わめに
ぐつぐつ抱きしめて
くれるので僕は
大好きだよ

僕弱いつちか押しなした
結局し



アツシユ

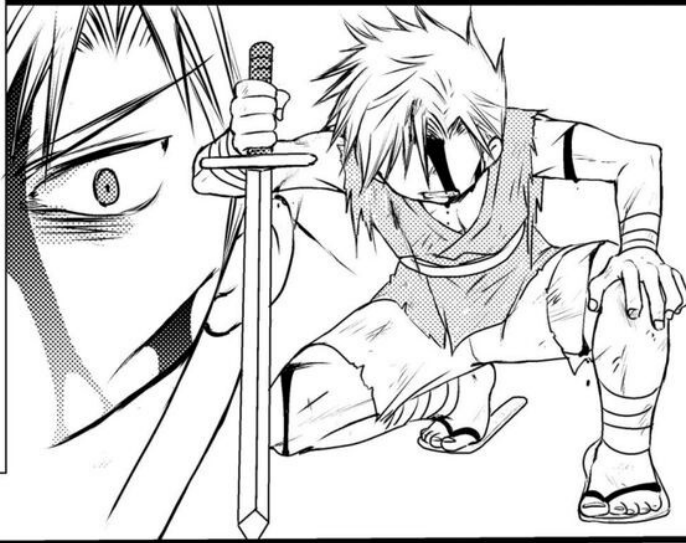


良かった...
まだ寝てる...

すゝー
すゝー



嬉そんな時に
のしそなに
中うにお前
でうに修と
何かが行す
が変る姿
わり始を
め見
たて



俺は生きる目的を失うだろう
きつとそれを達成したいが、
気持ちを変えたいはう
仇討ちのやり方
いまもグレイ様の
まもりたいの

ありがとうな

コイツの成長を見守ってみるのも
悪くないんじゃないか？
お前が俺に新しい目標を
くれたんだ

ぼ、僕は
何もして
ないよ？





予想外だったのは
お前とはセックスの
相性も良かった事だな

なっ

そうだな、
剣の他にソッチも
みっちり教えて
やらんとな。
いい目標ができた

え、ええ!?



心配すんな。
今度は気兼ねなく
出来る所で
してやるから
思いっきり声出せよ?

こうして僕は
キルと恋人同士に
なつてしまった

そして剣術と、
セックスを叩き込まれる
のであつた。

二冊目となりました冒険記、楽しんで頂けました
でしょうか。
今回原作小説とは特に六章の展開、セリフなどを
漫画用にかなり変更して描きました。
(小説版六章ではアッシュ君の方から抱いてと懇
願しておりました)
前回よりはBLらしくなってくれてるかなあと…

それではまた次の機会がありましたら。

2016.11 まぶき

乳首開発に勤しむ
キルさん



発行・むぎしぼり／まぶき
2016.11.29
mabukishibori@gmail.com
pixivID:2475464
twitter@mabuki_shibori



2016・むぎしほり